

キャラクター名
間山 郁 (いくみ)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ オルクス	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプション	ブラム=ストーカー	年齢	17	性別	女
覚醒	渴望	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %
出自	貧乏	経験	喪失	邂逅	殺意

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	3	1	1			5	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	1	0	1			2	戦闘移動	9
社会	3	0	1			4	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き剣	白兵	5r+5	0	最大10		
赤の力		0		最大16		浸蝕率5。<コンセントレイト><獣の力>

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 噂好きの友人	
コネ: コーポレート	
コネ: 要人への貸し	
専門家: 民俗学	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
桃野 勇儀	P 信頼	N 疎外感		
品川 ゆうこ	P 連帯感	N 恐怖		
宅間 ともひろ	P 誠意	N 劣等感		
アルベルト・マッタンハイヤー	P 好奇心	N 猜疑心		
夕霧 明	P 友情	N 侮蔑		
中島 剛	P 慕情	N 猜疑心		
家族	P 愛情	N 悔悟		

最大財産P: 10 残り財産P: 5

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト: キュマイラ	1	2	メジャー					
効果: C値-[Lv] (下限7)								
赫き剣	4	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果: [Lv*2]までHP消費し、[Lv*2+2]の近接武器作成								
オーバーロード	1	3	オート	至近	自身	自動	80↑	
効果: 命中判定前、武器攻撃力二倍。攻撃後、武器壊れる								
獣の力	3	2	メジャー	武器	単体	白兵		
効果: 白兵攻撃+[Lv*2]								
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 封鎖、離脱の影響を受けない戦闘移動。シーンLv回								
猫の道	★							
効果: 通常ではあり得ない近道を作る								
かぐわしき鮮血	★							
効果: 血の臭いで個人や集団を探せる								
かしずく歯車	★							
効果: 心臓を操り、精密作業を行う								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

家が焼けた系女子。成金のお家の子だったが、子どもの頃に家が焼けてその時になんやかんやあって貧乏になった。パパとママは当時は入院沙汰だったが、今は元気にやっている。元関西人で関西弁気味。家が焼けて自分も焼けて死にかけたが、オーヴァードになってなんとか生き延びる。以降、どこの組織にも見つからずたまに森の中で身体を動かして発散している。

桃野とは(山を降りたいって言ってるから多分山に住んでるんだろう)山の中を駆けずり回ってる時に会って、「桃のに一やん」と呼び慕ってる。桃野さんが武術とか得意だと大っぴらに言ってるなら稽古を付けてもらってる設定で。オーヴァードだと知られているかどうかはGM次第。

能力は空間支配と身体能力による移動、そしてオーヴァードに打撃を与える血液。木の枝や竹刀に血を垂らして刃を作って戦う「赫き剣」の演出。同族殺しの血液は妖しく赤く光る。コードネームの「ほたる」は、森の中でその赤い光だけをUGNだかFHだかに見られた時に付けられた名。飛び交う赤い光がまるでほたるのよう、という感じ。

一家一同、ちょっと貧乏でも明るく元気に過ごしている。だけれども、郁は知っている。家に放火したのは当時の父の部下で、会社がどうにかなくなってしまったのもそのせいだって事。だけれども会う気もないし、どうにかしてやるつもりもない。会ったら殺してやるって気が抑えられる気がしないから。ずっとなんか笑っていたいから。